

# 大域的文化システムの再構成に関する 資料学的研究

研究代表者 關 尾 史 郎

## 1. 分担者

船 城 俊太郎  
矢 田 俊 文  
原 直 史  
中 林 隆 之  
山 内 民 博  
高 橋 秀 樹  
永 木 敦 子

## 2. 協力者・所属

白 石 典 之（超域研究機構・教授）  
佐 藤 貴 保（超域研究機構・准教授）

## 3. 2008年度の研究活動の概要

超域研究機構所属のプロジェクト「東部ユーラシア周縁世界の文化システムに関する資料学的研究」、および大学院現代社会文化研究科のプロジェクト「大域的文化システムの再構成に関する資料学的研究」などととも、2回の研究例会を主催した。詳細は以下のとおりである。

第1回：2008年11月22日(土)、新潟大学五十嵐キャンパス

關尾史郎「高台県の魏晉・「五胡」時代の出土文物ノート」

白石典之「新疆地域予備調査報告」

第2回：2009年2月12日(火)、新潟大学五十嵐キャンパス

榎並岳史（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程在学中）

「南宋湖北の孟一族」

#### 4. 2008年度の研究成果の概要

2008年度も、引き続き資料学的研究を推進し、研究資料叢刊を2冊刊行した。日本中世史と中国古代史に関する資料集である。今後、これらの資料集を有効に活用して研究成果を上げていくことが求められる。メンバーの多くは、科学研究費補助金をはじめとする外部資金や学内の競争的な資金を得ており、このような資金を活用して内外において資料調査に従事した。

代表者である關尾は、今年度から、科学研究費補助金・基盤研究(A)「出土資料群のデータベース化とそれを用いた中国古代史上の基層社会に関する多面的分析」の代表者についてだが、本プロジェクトのメンバーでは、中林隆之、高橋秀樹（以上、分担者）、白石典之、佐藤貴保（以上、協力者）の4名が科研費プロジェクトでも分担者になっている。本科研費プロジェクトでは、中国の西北地域と西南地域に焦点をあて、出土資料の分析を通じて基層社会の経済・生産・環境・交通・民族の実際と、その社会を取り巻く制度などについて多面的に検討することを目指しているが、高橋と白石はそれぞれ甘肅と新疆といった西北地域で、中林は湖南すなわち西南地域で、出土資料の実見調査に参加した。これらの出土資料には、西北・西南を問わず、多民族共存の痕跡がうかがわれ、その結果として文化交流のメカニズムの解明が期待できるものである。今後、調査結果を整理・分析することが求められている。

#### 5. 2008年度の研究成果の一覧

關尾史郎

1. 「高昌郡時代の上行文書とその行方」、藤田勝久・松原弘宣（編）『古代東アジアの情報伝達』：75-89頁、東京：汲古書院、2008年4月。
2. 「トゥルファン新出「前秦建元廿（384）年三月高昌郡高寧縣都郷安邑里戸籍」試論」、『人文科学研究』第123輯：横1-19頁、2008年10月。
3. 「魏晋「名刺簡」ノート—長沙呉簡研究のために—」、『新潟史学』第60号：31-41頁、2008年11月。

4. 「五胡」時代の墓誌とその周辺, 『環日本海研究年報』第16号: 1-11頁, 2009年2月。
5. 「五胡」時代の「屬」について—トウルファン出土五胡文書分類試論(Ⅱ)—, 『資料学研究』第6号: 横25-34頁, 2009年3月。
6. 「トウルファン出土, 「五胡」文書の定名をめぐる—『新獲吐魯番出土文献』の成果によせて—, 『西北出土文献研究』第7号: 67-77頁, 2009年3月。
7. 「五胡」時代, 高昌郡文書の基礎的考察—兵曹関係文書群の検討を中心として—, 土肥義和(編)『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』: 183-200頁, 財団法人東洋文庫, 2009年3月。
8. 『トウルファン出土漢文墓誌集成(稿)—高昌郡・高昌国篇—], 新潟大学超域研究機構・大域プロジェクト研究資料叢刊14, 2009年3月, 清水はるかとの共編。

矢田俊文

1. 「越後文書宝翰集から文書様式論を考える」, 『2008年上杉氏史料研究会講演要旨集』: 1-7頁, 2008年11月。
2. 「完新世後半における太田川低地南西部の環境変化と津波堆積物」, (藤原治・小野映介・海津正倫・鎌滝孝信・内田淳一と共著), 『活断層・古地震研究』第8号(頁未定), 2008年。
3. 「戦国期播磨国権力構造に関する一視点—越後など諸国との比較から—」, 『年報赤松氏研究』第2号(頁未定), 2009年。
4. 「一八〇二年佐渡小木地震と地震史料」, 『災害と資料』第3号: 右1-7頁, 2009年3月。
5. 「浜松藩青山氏天龍川東領絵図と正保遠江国絵図」, 『資料学研究』第6号: 1-13頁, 2009年3月。
6. 『上杉氏分限帳』(福原圭一・片桐昭彦と共編), 高志書院, 2008年5月。
7. 『中世の巨大地震』, 吉川弘文館, 2009年1月。
8. (編)『直江兼続』, 高志書院, 2009年2月。
9. 『越後文書宝翰集 上野・発智氏文書』(新潟県立歴史博物館と共編), 新

新潟大学超域研究機構大域プロジェクト研究資料叢刊XIII, 2009年3月。

原 直史

1. (編)『近世平林町と越後荒川の世界』, 新潟大学人文学部附置地域文化連携センター, 2009年3月。

中林隆之

1. 「古代の宗教と鎮魂(追悼)」, 『新しい歴史学のために』第269号:14-24頁, 2008年9月。
2. 『加西市史 第一巻 本編1 考古・古代・中世』(今津勝紀・大村拓生・坂江渉・松下正和 他9名と共著), 加西市, 2008年, 第二章第四節の一・三・四を分担執筆。

山内民博

1. 「一七世紀初慶尚道蔚山府戸籍大帳と降倭」, 『日韓相互認識』第2号:1-24頁, 2009年3月。
2. 「朝鮮後期戸籍大帳僧戸秩及び新式戸籍僧籍の性格(上)」, 『資料学研究』第6号, 横1-24頁, 2009年3月。

高橋秀樹

1. 「『イリアス』と『宰相プタハヘテプの教訓』における議論・対話」, 『新潟史学』第60号:42-52頁, 2008年11月。
2. 「アテナイにおける「暴力」的政権の記憶と記録」, 『資料学研究』第6号:横35-45頁, 2009年3月。